



動物レスキュー通信

2014年12月 第19号 (平成26年12月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

殺処分について考える② 「ブリーダー」



前号ではペットショップでの生体展示販売について考えましたが、今号ではペットショップで展示販売されているワンちゃん、ネコちゃんはどこで?どのようになまされてきているのか?という疑問を持ってもらえるように、日本のブリーダーについて考えていきたいと思います。私自身、ネコちゃんと共に生活していますがその子達は出会った当初ノラネコだったミックスネコばかり。

ような仕組みになっています。このペットオークションの存在こそが日本に悪徳ブリーダーを増やす現況なのだと思います。

ブリーダーの現状

恐らくノラネコが自然繁殖した、もしくは無責任な飼い主が産ませたのは良いが飼えなくなつて捨ててしまったこのどちらかではないかな、と想像します。では、ペットショップで展示販売されている純血種といわれる子犬、子猫達はどこから来ているのでしょうか?その大半は、ペットオークションやブローカーなどを通して、ペットショップに並んでいるのです。もちろん自社で繁殖させた犬猫を自社で販売しているところもあります。それは数える程だと言われています。このペットオークションが曲者なのです。ペットオークションに参加するには何か資格のようなものが必要なのか?と言いますが、それは第一種動物取扱業者の登録です。以前よりは少し厳しくなつたようですが、試験を受けて合格しないといけないライセンス制などではなく、あくまで申請し登録すれば良いのです。この第一種動物取扱業者の登録を済ませていけば特別な審査などは一切なく、誰でもペットオークションに参加する事が出来るのです。そしてこのオークションの場ではブリーダーとペットショップが直接交渉できないような仕組みになつていて、生体の親の情報や管理状態などの情報はわからない

欧米などでのブリーダーとは、まずは繁殖を公式に許可する団体があり、その許可を受けなくてはなりません。許可を受けるには様々な審査があり、繁殖動物に関する知識が十分あることももちろんのこと、そのほかにも土地、時間の確保、経済的余裕、商売目的ではないことなど、必要条件を満たさないと許可が降りない仕組みになっています。その上でブリーダー本人がこだわりを持った1つの犬種に絞り、趣味で行われているのです。そしてブリーダーが子犬を譲る場合は価格をつけるという感覚ではなく、今まで育てた部分にかかった費用を負担してもらおうという感覚、わかりやすく言うと養育費という感じでしょうか。では、日本の場合はどうなのでしょう?欧米のように繁殖を公式に許可する団体があるわけではなく、国が免許制にしているわけでもありません。あくまで第一種動物取扱業者の登録をすればいいのです。先ほど述べたように、この第一種動物取扱業者の登録も実に簡単に出来てしまいます。そしてこれは買う側である消費者にも問題があるのですが、テレビや「マーシャル」漫画などで

ブームに乗る性質があるという事です。需要が高まればすぐに供給が足りなくなり、足りなくなるから価格が高騰し、売れると思うからとりあえず繁殖させる。このような負の連鎖に繋がってしまうのです。こつやつて安易に繁殖させるブリーダー、これがとても曲者なのです。こつやつて業者の事を業界では「パピーミル」子犬製造工場」と読んでいます。では、なぜパピーミルと呼ばれるのか?それは彼らの繁殖現状を見ると一目瞭然なのです。1つの犬種にこだわることなく、人気犬種を集めます。そして狭いオリーにそれぞれ押し込み、ただひたすら繁殖させ、産めるだけの子犬を産ませ、産めなくなつたら放置して餓死させる。こつやつて事が平気で行われているのです。この間の親犬の健康管理をきちんと行っていないことは彼らにとっては当たり前で、皮膚病がひどかったり、感染症にかかっているも平気で繁殖させ続けるのです。そして、その病気を保持してしまっている犬から生まれた子犬を平気でオークションに出品するのです。以前、ペットショップで購入した犬が先天性の病気を保持している、そのことが原因で裁判になったケースもありました。このように劣悪な環境に置かれ何年も間、クタクタになるまで出産させられ、最後には餓死、もしくは保健所行き(今は、無条件では引き取ってくれませんが)、こんなことはあってはならないのです。きちんと管理し、子犬を里親に出せるまで育て上げるには相当な時間とお金がかかります。それを商売として成り立たせるためにはこんなひどい方法をとるしかないのでしょうか。そもそもブリーダーを商売として成り立たせるには無理があるのです。このように、需要があるから無理に繁殖させられるというこつ、お分かりただけだと思います。前号でも述べましたが、殺処分を減らすには犬猫はペットショップで買わない。保護施設などから譲り受ける。これを常識に! みなさんの手カラで広めてください。(詩月)